

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟の愛称が、『彩り（いろどり）』に決定しました。

地域包括ケア病棟の愛称が「彩り（いろどり）」に決定しました。地域包括ケア病棟の運営に関わる部署（病棟、リハビリ科、医師、医事課、事務局、地域医療連携室）で愛称を募り、公募数50通の中から5通を選出し、最後は投票で決定しました。「彩り」の由来は、「患者さん個々の生活に合わせた手助けをし、彩り豊かな病棟を目指す」です。

地域の皆様に親しみやすく利用して頂きやすい地域包括ケア病棟を目指していきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

なお、残念ながら採用されませんでした。応募があったもの（一部）を以下に列挙します。なかなかの力作ですよ。（）内は由来です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

- ・アイリス（希望、よい便りの意味）
- ・架け橋（地域へ連携し、つないでいく）
- ・喜樂
- ・ささゆり（清浄、上品）
- ・すずらん（幸せが訪れるという花言葉）
- ・あすなる
- ・ほのぼの
- ・リライフ（RE：再び、LIFE：家に戻るという意味）
- ・とまり木
- ・ひだまり
- ・すこやか
- ・あじさい（小さな花が集まって1つの花となるため）
- ・link
- ・さくら
- ・いこい
- ・やわらぎ（やわらかい、あたたかいイメージ）
- ・すずらん（幸せが訪れるという花言葉）
- ・つなぐ（家族と地域をつなぐ、手をつなぐ、多職種でつなぐ）
- ・ゆずりは（「ゆず」の花言葉は健康美、「りは」はリハビリ、「ゆずりは」の花言葉は若返り）

直通電話を設置しました。

0774-73-1818

※ 地域包括ケア病棟でのご入院相談、お問い合わせなどにご利用下さい。

※ 繋がらない場合は、0774-72-0235（代表）をお願いします。



山城ケア病棟

検索

○上記で検索して頂きましたら、当院地域包括ケア病棟のページへ移り、広報誌 Design のバックナンバーをご覧頂けます。

○ゴールデンウィーク期間中など、一時的に在宅医療の継続が困難となる場合、地域包括ケア病棟をご利用下さい。（担当：中野・中嶋）

○地域包括ケア病棟に関するご要望をお寄せ下さい。

地域包括ケア病棟で受け入れた事例（第22回）

「ご本人の望みを叶えるために、ご家族と特養と病院がしたこと」

急性期治療終了後は地域包括ケア病棟へ転棟し、特養への復帰のための調整を行っていましたが、医療的ケアが必要なため、最終的には療養型病院へ転院されました。入院中、ご本人の希望をご家族が汲み取られ、ご自宅へ外出されました。（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

*

ご本人が以前、当院で看護助手として働いておられたこともあり、その当時を知る先輩からは、患者さんを大切にされていた方と伺っています。入院中のご本人は意思がしっかりされ、お話も出来る状態です。ご本人やご家族がのちのち後悔されないためにも、遠い未来ではないご本人の最期の意向を確認する必要があると、主治医よりご本人・ご家族に病状説明と意向確認を行いました。そして、ご家族がご本人の「自宅に帰りたい」という希望を叶えたいと、療養型病院への転院の前、ご自宅への外出を希望されました。外出中も吸引が必要なため、病棟看護師が同行しました。また、送迎は入所していた特養の担当の方が協力してくださいました。

外出当日、吸引器を持参し、施設のお迎えで桜の道を通りながらご自宅に向かいました。ご自宅には兄弟、お子さん、お孫さん、ご近所の方、ご友人、訪問薬剤師等、沢山の方がご本人に会うため待っていて下さいました。愛犬も嬉しそうに飛びついていました。車椅子で仏壇まで行き、凧を鳴らし、この日のためにお嫁さんが綺麗にされたお庭を見ながら、病棟では見たこともないぐらいしっかりと目を開け、ほほ笑みを浮かべながら、来て下さった方と思い出話をしておられました。そして最後は記念に写真撮影をしました。約2時間という短い時間でしたが、ご本人の家に帰りたい、ご家族の少しでも帰らせてあげたいという思いのお手伝いできたこと、その場に立ち合えた事を嬉しく思いました。後日、お嫁さんが写真を持って来て下さいました。「2時間でしたけどお互いに大切な時間を過ごせました」と涙ぐまれました。

退院支援看護師として、ご自宅に帰ることを目指していますが、ご自宅以外を選択しなければならず、患者様もそしてご家族もこれでよかったのか悩まれることもあります。そんなとき、今回のケースも退院支援の一環として提案していけたらと思います。頂戴した写真は看護師休憩室に飾らせて頂いています。（退院支援看護師 古川 こず恵）



～ご家族より～

病気療養のため、自宅での介護や施設で暮らすことが困難となりましたが、本人の「家に帰りたい」という思いが強く、数時間でも外出させてもらえないかと病院へ相談しました。送迎は、入院前に入所していた特養の方がして下さり、地域包括ケア病棟の看護師さんの付き添いの元、1時間あまりでしたが、無事に自宅へ帰ることができ、兄弟や孫に囲まれ過ごすことができました。その都度、いろいろな選択を迫られ、「これでよかったのか」という気持ちが残っていましたが、本人の望みが叶えられたこと、一瞬でも「幸せや、よかった」と思える時間を一緒に過ごせたことで和らいでいきました。本人の望み、家族の思いに寄り添って頂いた病院の方々に感謝しています。（ご家族）

